

立春を迎え、日が少し長くなり、春一番の発表もありました。これからは徐々に暖かくなってきますが、今朝の様に急に冷え込む日がありますので油断は禁物です。園内では春の花が咲き始めました。

★ 見どころ情報

ソシンロウバイ（素心蠟梅）ロウバイ科ロウバイ属（写真1）

中国大陸原産のロウバイは黄色い花弁に暗紫色の花芯を持ちますが、ソシンロウバイは花全体が黄色を帯び、強い芳香を放ちます。樹形は落葉低木で、日当たりが良く、適度に湿り気のある肥沃な土壌を好みます。ロウバイ（蠟梅）の名の由来は、花の様子をロウ細工のウメに例えた説や、旧暦12月（蠟月）に開花するためという説があります。またソシン（素心）とは、混じり気のないという意味合いで用いられ、花弁の色の様子からソシンロウバイと呼ばれています。庭木や生け花、盆栽等によく利用され、花の少ない時期に可憐な花を咲かすため珍重されています。

場所：管理事務所前

アテツマンサク（阿哲満作）マンサク科マンサク属（写真2左）

中四国地方の山地に自生し、大正時代に牧野富太郎博士により発見、命名されたマンサクの変種です。アテツの名は、発見当時の地名、阿哲郡（現在の新見市）に因みます。基本種マンサクと比較すると、花の香りが良く、花弁、萼ともに黄色になりますが、個体によって中間的なものもあります。また成葉になっても星状毛は両面に残り、特に葉脈に密生することで見分けます。

場所：管理事務所横園路沿い

アセビ（馬酔木）ツツジ科アセビ属（写真2右）

日当たりがよく、やや乾燥した場所に自生する常緑低木で、2月頃から鈴のような花を下向きにたくさんつけます。枝葉は有毒で、馬などが食べるとまるで酔ったようにフラフラする様子から、アシジヒ（足癢）やアシビと呼ばれ、アセビの語源になったといわれています。庭木に利用され、花が赤いアケボノアセビやベニバナアセビも流通しています。

場所：管理事務所前、見本園他

アオバト ハト科（写真3）

体が緑色のハトなので、アオバトと呼ばれています。平和公園等で見られるドバトと同じくらいの大きさで、「オー・ワオー」と特徴的な声で鳴きます。低地から山地の森林内に生息し、主に樹上でどんぐり類や、サクラやナナカマド等の液果を好んで食べます。海岸に飛来して海水を飲むことがよく知られており、塩分補給が目的とされていますが、解明されたわけではありません。雄鳥（写真3左）は翼のつけ根に近い、小雨覆（しょうあまおい）と呼ばれる部位がブドウ色帯びていますが、雌鳥（写真3右）には見られません。

★お知らせ

きのこ相談について

きのこアドバイザー退職に伴い、管理事務所でのきのこ相談は廃止となりました。

今後のきのこ鑑定等については、管理事務所までお問い合わせください。



写真1 ソシンロウバイ (管理事務所前) H28.2.17



写真2左 アテツマンサク (さくら通り) H28.2.17



写真2右 アゼビ (管理事務所前) H28.2.17



写真3左 アオバト♂ (園路沿い) 写真提供: 村田氏



写真3右 アオバト♀ (園路沿い) 写真提供: 村田氏